



第 28 回（平成 20 年 8 月 13 日）定例会の講演要旨

提供資料活用「札樽国道物語」を永久保存に

元北海道開発局土現担当官 三浦 宏氏



手稲に生れ育った者にとって、何をするにも生活道路そのものであった札樽国道、その成り立ちを昭和 27 年札幌開発建設部勤務、自称“若いあんちゃん”時代から道路づくりに関して来られ、その実務をご講演された。正に重みのある 90 分間の内容と云えよう。

幕末頃の刈り分け道から、クロフォードの道・軍事道路・札樽国道（資料④参照）、そして札樽自動車に至る変遷ぶりを、そのおりの時代背景を織り交ぜ展開された。私たちの例会で学習した手稲年表に、**昭 29 国道五号線の舗装が完成**とあり、今回の講演資料で昭 28・29・30 年の 3 年間で札樽間が舗装完成、昭 30・10・15 手稲中学校で盛大な落成式が挙げられたことが確かめられた（資料⑤舗装完成のアーケード写真に**会場入口**とあり、恐らく富丘の旧国道合流点であろう）。机上の知識が、「鳥打帽、タ

オルを首に長靴姿」務めて間もない兄ちゃん三浦現場監督の作業風景を重ね合わせつつ、一つの歴史事象が解明されたことになる。

更には終戦後の手稲町の世相も垣間見られる気がする。資料⑤右側 2 枚の写真は、手稲鉦山付近の駒止め工（『札樽国道物語』平成 17・12 刊行によると昭 29 年当時評判となった「ガードケーブル」である）であり、小樽方向へ大きくカーブしている、その左右の金山や星置・山口辺は原野だったのであろうか。

最後に講師から、講演の一部始終を逐一知り得なくても、「……ほう！」「なるほど！」とうなずける

箇所があれば、それで良？ と広いお言葉があったや？ に思いたい。幾つもの貴重なお話や目で見る写真や新聞資料も提供して頂き、今後この資料を永久保存して（当時コンクリート舗装は恒久的な工法で、やがてアスファルト舗装の出現も学習した）活用を図っていきたい。



クロフォードが建設した海岸道路(北大図書館所蔵)

追記になるが、資料③にある「手稲村道路元標」は、現手稲本町コミュセンの傍にある。手稲区石碑調査の大事な遺産になり得るもので、又又灯台下暗しであった。 [文責・茂内]

緊急お知らせ

11 月例会は 11 月 15 日（土）に変更します。

11 月は、文化月間ということで、手稲区（地域振興課）と共催で、講師に榎本洋介氏（文化資料室 前札幌市史編纂員）を招いて開催することとなりました。札幌市の広報でもお知らせする予定です。

次回例会のお知らせ

次回（10 月 8 日）は、次の会員発表を予定しております。澤本富延氏の「札樽バイパス建設秘話」と伊澤敏幸氏の「山口運河まつり誕生エピソード」。

「曙・稲穂拓北農兵隊」一苦難の道

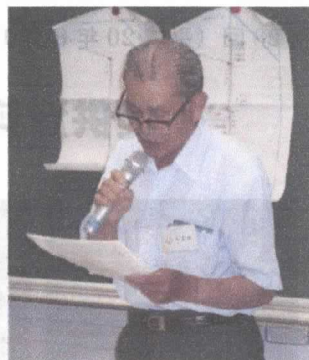
会員 平木 重男 氏

平木さんが昭和 43 年から住んでおられる前田・曙の一带は、終戦間際に拓北農兵隊が入植し、苦勞して開拓した農地の跡地だそうです。



三浦農場 牛舎・泥炭工場
昭和18年頃

この地で 19 年間にわたって、町内会長や鉄北連合町内会の役員を務めてこられた平木さんは、農兵隊生き残りの人々から、入植時の苦勞話をいつも聞かされてきました。その想いを伝えようと、平木さんは地図や写真などの資料を交えて熱弁ふるわれました。



「太平洋戦争も末期に近い昭和 20 年 7 月、連日の空襲で家を焼け出された東京杉並区の 16 家族が、「拓北農兵隊手稲分隊」として前田・曙地区に入植した。しかし、間もなく終戦となり、戦後の混乱の中で、厳しい気候風土、慣れない農作業・荒地の開削など、悪戦苦闘の連続であった……」。

入植した 16 軒のうち、現在もこの地で子孫が残っているのは 7 軒のみであり、また、その農地も全て宅地化されてしまった。手稲の歴史を語る上で、「拓北農兵隊」の果たした役割を風化させてはならないとの思いを強くしてくれた発表でした。 [文責・鈴木]

鉱石の博物館めぐり参加者募集

手稲鉱山グループでは、次の日程により博物館見学を行います。
会員の中で参加を希望される方は事務局まで申込みください。

- ・ 日 時 9 月 26 日（金）13 時～16 時 30 分
- ・ 見学場所 山の手博物館 弥永北海道博物館
- ・ 交 通 会員の自家用車に分乗して見学場所へ
- ・ 会 費 1,000 円（入館料、車燃料費）

「北家・光風館跡の視察・調査報告

去る 7 月 19 日（土曜）、手稲区内では最も歴史のある施設の一つ“北の家・光風館”跡を見学し、現在管理にあたっておられるご高齢の管野博子氏から 1 時間半以上にわたって光風館の現在に至る栄光と苦難の長い歴史を、手元に用意した記録帖を基に、詳細に語って頂いた。

お詫び

前号（8 号）の講師上野秀一氏の肩書きで誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。正しくは「札幌市埋蔵文化財センター 文化財担当課長」です。

その後、施設や原始の森に近い環境にタップリつかった後、下山し、富丘・西宮の沢会館で持参した手弁当を食べながら、手稲史に関するそれぞれの思いを語り合い、15 時に閉会した。あゝ、今日は楽しい半日を過ごせて、よかったなーあ！ [文責・景浦]